

平成 21 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	多彩なフレーバーで探る新しいハドロン存在形態の包括的研究	
領域代表者名	飯嶋 徹（名古屋大学・大学院理学研究科・准教授）	
研究期間	平成 21 年度～ 25 年度	
【科学研究費補助金審査部会における所見】		
<p>本研究領域は、互いに独立して研究を進めてきた素粒子・原子核分野の実験・理論研究者が結集し、ハドロンを構成するクォークの閉じ込めやハドロンの質量生成といった根源的問題の解明を目指すものである。Belle と LEPS 両実験において、世界に先駆けて進められたテトラクォークやペンタクォークなど新しいエキゾチックなクォーク少数多体系の成果を踏まえて、解明すべき課題は明確に設定されており、これまで別々に進められてきた素粒子・原子核両分野が連携して研究を進める構想は高く評価される。マルチクォーク状態の探索は、日本が先鞭をつけて世界に発信したものであり、J-PARC が立ち上がり、Belle のデータも十分蓄積されている状況で、時宜を得た素粒子-原子核融合を目指すユニークな提案である。日本のグループが研究の火付け役となり、新しいハドロン物理の分野を開拓してきた研究を引き続き継続し、さらに発展させる必要性は高いと考えられる。</p>		